城東中学校だより

【カラー版を、ホームページに掲載しています】

NO.14　2023.12.12
発行者　城東中学校長
TEL　26－7022

人権に関わる学習に取り組んでいます！

前回の学校だよりでお伝えしたように、伊賀市の小中学校では、「学力」・「人権」・「キャリア」を3つの柱として、学習に取り組んでいます。今回も前回に引き続いて、城東中学校での、人権に関わる取組を紹介させていただきます。

1年生が人権講演会を開催しました！

12月4日（月）の3・4限に1年生が、NPO法人なちゅらん四日市の杉田宏さんから、「ともに生きよう！ともに歩もう！～一人ひとりが大切にされる社会をめざして～」をテーマに、お話を聴かせていただきました。「障がいは、その人に属するものではない。違いがある人に対するまわりの態度や、社会的な制約が障がいを生み出しているということ。」「ともに生きるということは、いろんな人が“ごちゃまぜ”にいることが許される社会を作っていくということ。」「互いにつながりを意識し、対話をしながら、考えを出し合うことが必要であるということ。」を学ぶことができました。また、「人との出会いによって、人生が変わっていくこともある。出会いを大切に」というメッセージもいただきました。

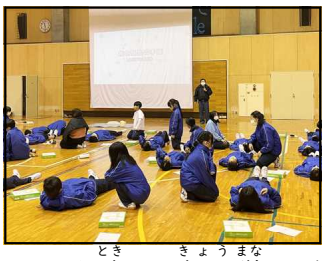
【生徒の感想】

○「障がい」はその人の問題ではなく、その人を生き難くさせている社会の問題ということがあらためてわかった。自分一人でできることがそれぞれ違うから、お互いに手伝っていくことで「障がい」を感じずに生きていける社会が作れる。そのためには相手と話をしていくことが大切だと思いました。

○自分は、障がいがあるからといって「かわいそう」と思っているときがありました。でもそれは自分の勝手な思い込みだと気がつきました。最初から決めつけるのではなく、相手に聞いて、いっしょに考えていこうと思いました。

○お話の中の、「人は人を浴びて人となる」という言葉が心に残りました。出会いがあって、お互いに理解し、そこからどんどん周りに広がっていって、一人ひとりが大切にされる社会を作っていくんだなと思った。これから自分はいろんな人と出会っていくだろうから、お互いに理解し合えるようにしていきたい。

2年生が救急救命講習を行いました！



11月27日（月）の5・6限、2年生が体育館で伊賀市消防本部から講師をお招きして、AED操作と心臓マッサージのやり方を教えていただきました。

【生徒の感想】

○いつか来るかもしれない「いざ」という時に何ができるか、が大事だと思いました。中学生でも学ぶことで救える命があることを知りました。その「いざ」という時に、今日学んだことを活かして冷静に行動したいです。

○心臓マッサージをすることが体力的に大変なこととは知っていたけど、力を入れて圧迫してもなかなか音がならなかったので、実際はもっと大変なんだなと感じました。心臓マッサージやAEDなどをどのような順序で行えばよいか、いつどんな場面で必要か知れてよかったです。

2年生が人権講演会を開催しました！

12月5日（火）の3・4限に2年生が、反差別・人権研究所みえ常務理事兼事務局長の松村元樹さんから、「差別を放置する多くの人たち」をテーマにお話を聴かせていただきました。差別をするつもりはないが差別を支えてしまっている、その無自覚さに生徒たちが気づくことができ、具体的事例から立ち止まって考える機会をもつことができました。「差別を支えている多数派が変わる」、その強いメッセージを生徒たちに届けていただきました。

【生徒の感想】

〇無意識にしてしまう差別について、気づいて行動することが大切だと分かりました。松村さんは多数派が置かれている状況を分かりやすく説明してくださって、そこから学べてよかったです。人はそれぞれマイノリティ性を持っているので、お互いに分かり合えるようにしたいなと思いました。無意識に差別しているときに、注意したり気づくことができるような人になりたいです。差別をなくす取組は企業も行っていることを知って、より世の中が生きやすくなったのかなと感じました。周りの人を少しでも傷つけないために、もっと学習していきたいなと思いました。

〇私は、松村さんが一番最初に話してくれた外国のルーツがある人に「日本語がお上手ですね」というのが無意識な差別にあたるということが心に残りました。小学校のころ、外国にルーツはあるけれどずっと日本に暮らしていて、日本語はしゃべれるという子がいました。今回の話を聞いて思い出しましたが、昔クラスの子がその子に「～やったらこの言葉読めるよな」みたいな感じでしゃべりかけていることがありました。私は「外国の人＝日本語が話せない」が偏見にあたるなら、「外国の人＝外国語がわかる」というのも、ただの偏見にすぎないのかなとも思いました。私たちからすれば、普段の何気ないコミュニケーションのつもりが、その人からしたら少し違和感がある、モヤモヤする会話だったのかなと思いました。それを少数派の人が声をあげる環境ではなく多数派の人がその人たちの生きづらさや違和感に気づき、差別を支える側にならないようにしたいと思いました。

〇私は松村さんの話を聞いて、「自分には関係ない」ということが一番差別に関わっていると思いました。パートナーシップ制度ができて、パートナーの証明があれば入院している家族と面会ができたりどんどん社会が変わってきているけど、多数派の人たちは証明をしなくても名前を書けばすぐに家族と面会ができる。私は、この異性愛、同性愛者によって分けられていることに差別を感じました。私は人権学習をしていなかったら、“差別がある”ことに気づけなかったと思います。そして、社会的特権を持っている人たちは見る景色が違い、少数派の人たちの思いに気づいていないと思います。私は話を聞いて身近に知らなかった差別がたくさんあることを知り、これからも人権学習を大切にしていこうと思いました。

3年生がデートＤＶについて学習しました！

12月8日（金）の5限に、3年生が三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」からお2人の講師にお越しいただいて、デートDVについて学習しました。

【生徒の感想】

〇DVでうばわれるものはたくさんあったけど、笑顔と普通の生活の2つが特に心に残りました。暴力を受ける方は悪くないと言っていて、差別と同じでする方が悪いと考えました。

〇デートDVを受けている人が6人に1人もいることを知って驚きました。

〇「暴力をうけるのはあなたのせいじゃない」と「二人はそれぞれ違う所があるけどそれぞれ同じ価値」という言葉が心に残りました。